

# 第18回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」

〒540-8508 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株) サクラクレバス内

TEL:(06)6910-8800 FAX:(06)6910-8837

2013年3月発行

HPアドレス:<http://www.craypas.com/satooya/index.html>

## 交流遠足 (UCCコーヒー博物館・六甲山牧場)

10月13日(土)秋晴れの日、交流遠足を実施しました。今年では予約の関係で案内を出状する時には詳細な行程が決まらず、行き先を「神戸方面」とだけ記載して案内したにもかかわらず、大勢の方から参加表明をいただき、大型バス1台に乗りきれぬのか?事務局としてはドキドキの準備期間でした。結果、補助席を全部使って満席60名の方々の参加をいただき、賑やかに出発しました。

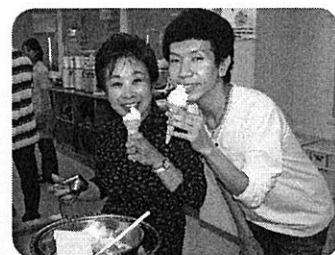
まず、ポートアイランドにある「UCCコーヒー博物館」に行きました。2班に分かれて、案内のお姉さんからコーヒーについて詳しく学びました。その後、昼食会場の神戸ポートタワーホテル

の「ポートキッチン」へ。各国のお料理をバイキングで好きなだけ食べられます。何回も何回も食事を取りに行き、お腹いっぱい、美味しい、大満足な昼食でした。

次は一路六甲山、六甲山牧場へ。とても広大な牧場なので、家族毎自由に牧場内を散策してもらいました。山羊や羊、ポニーとたわむれ、自然に癒されて楽しく過ごしました。最後は「まきば夢工房」での「アイスクリーム作り体験」。決められた分量の牛乳、生クリーム、スキムミルク、グラニュー糖を混ぜ合わせたボールを、氷と塩を入れた別のボールの上で回す、回す、回す。周りが凍り始めたらヘラで削り、適当な硬さになったらコーンに移して食べる。そんな手順で作ります。親子で協力し合って、楽しくアイスクリーム作りをしました。たくさんの量が出来上がり、2つ3つと美味しく食べ、これまた大満足な体験でした。

学んで、体験して、交流してという遠足も今回で7回目です。毎回たくさんの方々にご参加いただき、バス1台に乗りきれぬか?という課題はありますが、これからも楽しく続けていきたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

今回はUCC珈琲様にお世話になりました。ありがとうございます。この場を借りてお礼申し上げます。



# 新年交流会

## 華やかだった新年交流会

今年も恒例の新年交流会が1月12日（土）に大阪日本語教育センターで開催されました。あでやかな振袖姿に変身した留学生達はまばゆいばかりに美しく、会場の雰囲気明るくしてくれました。男子学生も着物姿が増え、りりしくたくましく見えました。

余興の演目はまず新春にふさわしく箏曲と尺八の演奏で、懐かしい日本の歌「通りゃんせ」「さくら」「荒城の月」を奏でて下さり、アメリカナイズされた戦後間もない教育を受けた私にはお琴や三味線は余りなじみがありませんでしたが、こういう場で改めて日本の楽器の音色の美しさを認識致しました。それに続いて日本舞踊の「末広狩」。女大名と太郎冠者お二人の息の合った舞いを見て、日本人に忘れられている日本舞踊のよさを味わいました。

プログラムの途中でインドネシアの留学生達が「ガドガド」というサラダを舞台上で実演して作って下さいました。参加した人達は異国の味を味わう事が出来ました。このサラダはおかずではなく「おやつ」の時に頂くとかでお国が異なれば、食べ物の食べ方も違うんだなあと認識を新たにしました。

続いて里親さんのハーモニカ演奏で“You are my sunshine”と「おぼろ月夜」そして台湾とインドネシアの里子さん二人が「亜麻色の髪の乙女」を日本語で上手に歌って下さいました。続いて里親さん及びタイとマレーシアの里さんの3人

が日本語ではなくてタイ語と中国語で歌って下さったのは「童話」というラブソング。留学生の国の言葉を学ばれた里親さんのご努力に感心しました。お互いがお互いを尊重し、学びあう姿勢は相手国を理解するために誠に尊い事だと思います。

続いては里親さんが沖縄の三味線を弾き、中国の里さんが「なだそうそう」を日本語で歌われ、お二人の息が合っただけでも又素晴らしかったです。

それからシンガポール、フィジー、マダガスカル、ドミニカ共和国の留学生達による「南太平洋の踊り」は南国的でセクシーで異国を感じました。結婚式などで踊られるダンスだそうです。

プログラムも段々終わりに近づき留学生達全員の記念写真を撮り留学生達に将来の夢と希望を語って頂き、最後はビンゴゲームで盛り上がり、なごりを惜しみながら会は終了しました。

このように民間の国際交流が地道に進められ、積み重ねられる事によって、外国人には日本を正しく理解してもらえ、そして世界平和の礎（いしずえ）が作られる事になると私は信じています。

年を重ねるごとに新年交流会が楽しく盛り上がり、参加者も増えてきている事は、この上なく嬉しいことだと思います。ご協力下さった皆様、どうもありがとうございました。



日下 淑子  
(司会担当)



## 里親

### 里子が語った日本、そして里親 ～香里園ロータリークラブで～

留学生の陳佳怡さんが香里園ロータリークラブで開かれた「本日の卓話」で【日本に来て感じた事】をテーマに語ってくれた。

上海の師範学校を卒業、書道や電子ピアノなどを趣味に両親の庇護のもと、不自由なく育てられた彼女が、日本でアルバイト探しや面接時に自国との習慣の違いに戸惑った事などを淡々と話していた。たとえば、コンビニでパソコンのメディアから印刷ができなかったこと、駅前の不法駐輪で自転車を撤去されたこと、面接時間待ちで会場ビルの寒い階段でパンを食べたことなどから、「家族のありがたみが身にしみた」と。そして「日

本には親切で優しいお父さんがいて、名所や日本食などを通して日本文化を感じさせてくれたり、日本語習得の機会を作ってくれ様々なことを教えてもらったり、有意義な留学生生活を続けている。このように里親・里子の良好な関係を保ちながら、日中の架け橋となれることを望んでいる」と付け加えた。

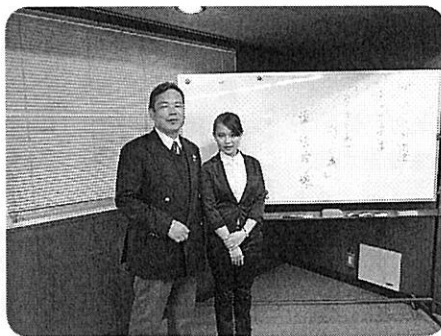
この日の香里園ロータリークラブでの体験は陳佳怡さんの、さらなる「日本理解」につながったことを確信するとともに、里親として記念写真にもおさまり「里子・里親」の絆の深まりを感じられるひとときになった。



西邨 智雄  
(寝屋川市)



日本の思いを語る陳佳怡さん



里親の西邨智雄と記念撮影



ロータリーアンを前に堂々と「日本」を語る陳佳怡さん

## 里親

### この会に参加して

初めて留学した1982年当時の北京、言葉や習慣が分からず、周りのいろんな人たちに本当によくしてもらいました。ご恩返しという訳ではないのですが、同様の不安な気持ちを抱く留学生を何らかの形で応援したいと、留学生さとおやの会の趣旨に賛同しました。

タイ留学生のティム君は、写真や絵、また建築物を見て回るのが好き。将来は内装デザイナーを目指す。マレーシア留学生のフォンさんは、日本の音楽や舞踊が大好きで、この4月からなんと帝塚山大学で経営学を勉強します。二人とも、日本語の勉強を始めて1年あまりという割りに、漢字混じりのメールを送ってくるのにビックリ!きっと、大阪日本語教育センターのプログラムの成果なのでしょう。

留学生さとおやの会の新年会に初めて参加しました。家族になりたての3人はパフォーマンスをどうしようと相談の結果、ティム君がギターで伴奏し、タイ語と中国語と一緒に歌うことになりました。カラオケボックスで練習し、センターの会議室で音合わせ、事前の共同作業を通じてお互いの距離もグッと近づきました。

新年会本番では、やや緊張気味でしたが、最後までしっか

り歌えて、3人でとても楽しいひと時を過ごすことができました。代表の西村社長や事務局の松井さんを始め、献身的なボランティアのみなさんに感謝致します。

フォンさんは、大阪で生まれて初めてクラシックコンサートを聴きました。次は、お好み焼きやたこやきなど粉ものに挑戦したり、さくらを鑑賞したり、BBQをやったり・・・せっかく日本を選んでくれた留学生の青年のみなさんが、いい思い出をいっぱい作って、ご両親やお友だちにもたくさん紹介できるよう、微力ながらサポートしたいと思います。



吉村 由紀夫  
(吹田市)



2012年12月30日早朝、里親の大森寿美子さんが急逝されました。大森さんは毎年複数名の里親になってくださっていました。訃報を受け、昨年と今年の留学生に念のためと連絡したところ、寝耳に水という事で非常に驚いていました。直前まで楽しく交流されておられたとのこと。里子のお二人が追悼文を寄せてくださいました。大森さんの御冥福を心よりお祈り申し上げます。



(故)大森寿美子さん

私は2年前大森さんと出会いました。そのときには、私は日本のことが何もわかってなかったのですが、日本の文化やいろいろなことを教えていただける方がいたらいいなと思っていた時、偶然、私が通っていた日本語の学校で里親プログラムを先生から勧められて、ちょうどよいタイミングで申し込みました。



ファンミンシク  
(韓国)

大森さんから、日本の文化や日本の方と出会うときに気をつけなければならない点など、さまざまなアドバイスをいただきました。日本のことが分からなかった私にとって、大森さんは救世主のような存在でした。大森さんは一昨年ひざに手術を受けたため、外で一緒に活動したことはあまりなかったです。しかし、そのかわりに大森さんの自宅や自宅の近所で食事をしたり、祭りに参加したりしました。そのときに、いろいろなことを教えていただきました。

1月に大森さんがお亡くなりになったことを聞いて驚きました。私は大森さんの友人や知り合いを誰も知らなかったのですが、【留学生さとおやの会】の事務局からの連絡で知りました。いつも



帰国から日本に帰ってくるたび、一緒に食事を誘っていただきましたが、私のことをいつも気づかせてくださった大森さんのことが思うたびに、淋しい気持ちでいっぱいです。私はいつまでも大森さんの心を忘れません。感謝の気持ちを込めて言いたいと思います。ありがとうございました。

春も近かしというこの時、大森さんご逝去の知らせを受け、ただただ世の中の無常を恨み、誠に痛恨の痛みでございませぬ。学習と生活の諸多事情のため、告別式に参列できなかったことを、誠に申し訳ありませんでした。

大森さんと一緒に時間は短いですが、大森さんが留学生に対するご関心とご愛護は、両親から離れた私に感動と温もりを送っていただきました。大森さんは、日本の生活にまだ慣れていない私たちの留学生たちに、いつも微笑んで、励ましていただきました。大森さんと一緒に家でパーティーして、楽しく会話したこととは、まるで昨日のことのようでございます。

大森さんは、非常に勤勉で真面目な方であり、多くの困難を克服して、英語やイタリア語などの複数の言語をマスターし、古代のイタリア文明の本をご翻訳して出版したこともあります。大森さんはホントに「一生勉強」を貫き、ずっと学問と文化の世界で自分の思考を磨き、異文化との交流に情熱と期待を抱き、確実に国際交流に自分の力を貢献する方でございます。勉強も生活も一生懸命な大森さんは、私のような里子たちに模範的な生活態度を示しました。大森さんのように、年齢に負けず、自分の興味と理想へ羽ばたく勇氣と努力は、これからもずっと私の人生を指導し、励まします。

これからはあの慈愛あふれる笑顔に再び接することができなくなりますことが、誠に残念の極みだと思っております。永遠の眠りにつかれた大森さんの遺志は私たち一人一人の胸に刻まれ、いつまでも人々の心に生きることと思ひます。どうか安らかなご昇天をお祈り申し上げます。

悲しみは深く、ただ大森さんの思い出にひとりながらお別れの挨拶と致します。

誠にありがとうございました。



許柏  
(中国)



## ワン・ワールド・フェスティバル

2013.02.02.~03.

2013年2月2日(土)・3日(日)の2日間、大阪国際交流センターで開催のワン・ワールド・フェスティバル「NGO/NPO活動紹介ブース」に出展してきました。皆さんから寄贈いただいた品々を販売しながら、来場者に留学生さとおやの会をPRしました。皆さんあまり活動をご存知なくて、とても興味深くお話を聞いてくださいました。これが入会に繋がればよいのですが。

当日お手伝いをいただいた皆さま、商品を寄贈いただいた皆さま、ありがとうございました。



## 編集 後記

今年度も無事活動を終え、留学生里親・里子だよりを発刊することができました。今年は発足10年目を迎える記念の年となりました。新たに10名の里親の方が参画していただき、55名の留学生を受け入れ、発足以来の受け入れ数、累計400名を数えるまでになりました。これもひとえに里親の皆さま、ご協力いただいている法人会員、賛助会員の皆さまのお力添えがあればこそだと、感謝申し上げます。これからも未長くこの会が発展していくことができますよう、皆さまのご支援ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、当会幹事長の八木淳氏が昨年9月9日にご逝去されました。大阪商工会議所留学生委員会の時より、たくさんの留学生の里親をお引き受けいただき、当会の発足についても多大なるご尽力をいただいております。八木先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(事務局)